

氏名（本籍）	すみ なおき 角 直樹 （ 鳥取県 ）
学位の種類	博士（医学）
学位授与番号	甲 第 718 号
学位授与日付	令和 5 年 3 月 9 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学位論文題目	Diagnosis of histological gastritis based on the Kyoto classification of gastritis in Japanese subjects – including evaluation of aging and sex difference of histological gastritis
審査委員	教授 青山 裕美      教授 近藤 英生      教授 河本 博文

#### 論文の内容の要旨・論文審査の結果の報告

【論文の要旨】内視鏡所見と組織学的所見を比較検討された報告は少ない。本研究は、汎用されている Update Sydney system とは異なる京都分類を組織学的所見と合致しているかを検討することを目的とした。さらに京都分類を用いた *H.pylori* 感染陽性患者を対象に、組織学的な所見が、年齢と性差の影響を受けているかを検討した。2010 年 1 月から 2018 年 9 月までの期間に川崎医科大学附属病院にて上部内視鏡検査をうけた胃炎の患者を対象に、京都分類に基づく内視鏡所見と *H.pylori* 感染に関連した組織所見（炎症、萎縮、腸上皮化生）との関連性を検討した後向き研究を行った。方法 対象患者のうち、所見に影響を与える可能性のある基礎疾患がある患者、胃酸分泌抑制薬内服中の患者、胃癌や潰瘍のある症例は除外され、感染あり 303 例、感染なし 258 例を対象に内視鏡所見と生検組織の結果を検討した。内視鏡所見と組織所見による *H.pylori* 感染感染有無は、感度特異度はそれぞれ 98.7%98.4%であり、京都分類は優れた分類であると結論した。感染あり患者を対象に、年齢(20-39 歳、40-59 歳、60-79 歳)群と性別が、組織所見（炎症、萎縮、腸上皮化生）に対する影響を検討し、年齢が上がると高度になる所見、女性に多い所見、男性に多い所見を特定した。それらの結果を踏まえて、若年者でも内視鏡検査をうける意義があることが提案された。【論文審査の結果】背景と目的は十分に記載され、解析の方法は妥当である。倫理的申請は適正に行われている。結果の記載と解釈および考察も適切に行われ記載されている。本邦における内視鏡検査基準を客観的に評価した価値のある研究と判断できる。上記より、本論文を学位論文として相応であると判断した

#### 学位審査会（最終試験）の結果の要旨

学位審査会では、Update Sydney system の課題と京都分類の説明があり、本研究の重要性を含む研究が計画された背景が説明された。それに引き続いて、方法、結果、考察のパートにわけてわかりやすく説明された。

内視鏡的胃炎と定義した理由を問う質問には京都分類による *H.pylori* 感染感染有無とせず内視鏡所

見との関連を説明するために用語を選定した理由が説明された。3人の独立した医師による判定結果の差が検討されていない、Update Sydney system と京都分類を比較できなかった理由はいずれも後向調査のためと回答された。京都分類の細目と組織所見の関連性は、興味があるが施行できなかったと回答された。京都分類と胃がんのリスクに関する質問に適切に回答し、専門分野の学識を有していると判断した。後向研究の限界を正しく認識し、可能な範囲で適切に解析を行い、解析結果を考察していると推察された。後向研究をおこなってみて、その限界を感じ、今後前向き研究を計画する必要性があると意欲的な発言があり、指導的役割を果たすことが期待できそうである。質疑応答は、適切にされ、研究に実際に関わり、自分で考えて考察している点は高く評価できる。本領域に関する知識、学問に対する態度、今後の研究遂行能力は十分に備えていると考えられ、最終試験の合格に値すると判断した。